

令和4年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立美園南中学校）

学校番号 258

【様式】

目指す学校像	○学ぶ喜びのある学校 【Grit: やり抜く力で真の学力を育成する】 ○夢をはぐくみ、笑顔があふれる学校 【Growth: 一人ひとりの成長を支え、「生涯学び続ける力」を育成する】 ○たくましく生きていく力を身につけられる学校 【Global: 「国際社会で活躍できる力」を育成する】
重点目標	1 生徒一人ひとりが、来がい・居がい・ひとみ輝く場所のある学校づくり（生徒理解と心の教育の充実） 2 自ら進んで考え、表現し、学びを活用できる生徒の育成（ICT機器を効果的に活用し、真の学力の向上） 3 自ら心身を鍛え、安全に生活できる生徒の育成 4 社会に開かれた地域に根ざし、地域に誇れる特色ある学校づくり

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
B 概ね達成 (6割以上)	
C 変化の兆し (4割以上)	
D 不十分 (4割未満)	

*重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
*番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的な方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価			実施日令和 年月日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	『学力向上に関する取組』 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○日々の授業で、一人一台のタブレットを活用し課題解決のための調べ学習や、調べたことの整理やまとめ、プレゼンテーションを行うことに意欲的に取り組む生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に数学の「数学的な見方や考え方」や「データの活用」、国語の「読解力」に関する設問について、結果の二極化傾向が見られる。 ○家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒や先を見通した計画的な学習を苦手とする生徒がやや多い。	・生徒がわくわくする授業の提供 ・学びの自律化や個別最適化、教員の授業改善に向けた情報端末の活用	・GIGAスクール構想で整備されたタブレットを有効活用し、学習の理解度を高める。数学の「数学的な見方や考え方」についての習得・探求はもちろん、全教科において学力向上を目指すため、①授業で書く力や発表する力のさらなる育成のため、全教科で授業3時間毎に1回以上、ミライシードやTeamsを使用し集団での学びを活性化させる。 ②家庭学習の充実や学びの自律を図るために、タブレット毎日持ち帰らせ、デジタル教科書の問題やスタディ・サプリを効果的に行わせる。また、億リンクやパワーポイント等で授業の課題に対する予想を立てさせ、授業の充実の一役とする。 ③中間テストをなくし、単元テストを導入することで、日々の学習をより大切にする学習体制に移行する。 ④学びの自律を促すために、登校後すぐに生徒全員がタブレットを開き、健康状態を打ち込み、ドリルバークやスタディ・サプリで自学自習の習慣、基礎学力の定着を図る。 ⑤全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、国語の読解力に関する状況や数学の「数学的な見方や考え方」を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修等により、より効果的な手立てを設定し、学校全体で生徒の弱点克服を図る。	①学校評価教職員アンケートで「生徒に学習意欲を持たせる工夫」に肯定的な回答が97%以上となることができたか。 ②学校評価生徒アンケート「授業のわかりやすさ」「家庭学習の取組」の各項目について肯定的な回答が、「授業のわかりやすさ」が95%、「家庭学習の取組」が70%以上上昇させることができたか。				学校運営協議会からの意見・要望・評価等
2	『安全・安心に関する取組』 (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回っている。 ○心に不安を抱えている生徒が多くみられ、個々に応じたケアが必要である。 ○昨年度、安全教育に重点を置き、生徒が様々な活動に取り組んだため、安全に対する意識が高まっている。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、家庭環境等の生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確實に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をさらに育んでいく。	・全ての生徒が生き生きとした表情で学校生活を送れるよう、生徒一人ひとりへの細やかな教育支援相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた生徒会の活動や、学校行事の充実	・授業や行事等、あらゆる場面で生徒の活躍の場を設定し、できたことを大いに褒めたたえ、生徒の自己指導能力の育成を第一に考え、①全クラス担任・副担任が生徒の信頼自己や信頼他者を高めるための方策を考え、具体策をもって日々の学年・学級経営に当たる。 ②長欠生徒の家庭やさわやか相談室等に授業のライブ配信が行えるよう整備し、クラスに入れない生徒の毎日の学びを保証する。 ③タブレット端末を活用して生徒指導や教育相談部会、生徒との面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。ICTにより、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ・安心・安全な生活を自ら築く主体的な生徒の育成のため、①生活安全として、生徒自ら、実感に合わせた生活のきまりの見直しや自販機使用上のルール等の策定を行う。生徒会本部や代表委員会、クラス討議を経て、年2回の生徒総会での全校生徒の熟議で決定する。また、保健朝礼「健やかタイム」を月1回、保健委員主催の保健集会を随時開催する。 ②災害安全として、避難訓練や美園小と連携した引き渡し訓練を計画的に行い、中学生としての社会に対する役割の自覚を深める。 ③交通安全として、生活安全委員が登下校の時間帯に、交通の要所に立ち、見守りを行う。また、自転車安全教室・安全点検を計画的に行う。 ④MIP(美園南情報パトロール隊)の取組強化を図る。SNS上の個人情報漏洩や誹謗中傷等の未然防止を生徒自らの手で行う。 ⑤デジタルシチズンシップ教育を進め、本校で活用する Minecraft: Education Edition を適切に活用して探究学習ができるようにする。	①1月の心と生活のアンケート、全校生徒の信頼自己が高い生徒(ABC判定)の生徒数が90%以上となることができるか。 ②学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」の肯定的な回答の割合が95%以上、保護者アンケートにおいて90%以上になることができたか。 ①学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「交通ルールを守って登校、自分の命は自分で守るという意識の高まり」の2つの設問の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。				
3	『開かれた学校に関する取組』 (現状) ○昨年度、小・中が一体となった学校運営協議会で3回の熟議を行い、美園地域でどのようにSDGsに関われるか、や美園地域が学校に期待すること等、様々な意見を共有することができた。自ら課題を見出し、協働して解決していく児童生徒を地域全体で育てていくことを確認した。 (課題) ○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童生徒の姿や学校に期待することを、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、地域ぐるみで子どもを育てるために、学校、家庭、地域それぞれが、できることをさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・地域ぐるみで子どもを育てるための具体的な方策の発案と実践 ・生徒自ら地域や社会に貢献できることを考え、実践する力の育成	・コミュニティ・スクールを更に進め、地域に根差し、地域とともに成長する学校にしていくため、①美園小との小・中合同学校運営協議会を年3回開催し、昨年度の熟議を踏まえた、地域(大門地区・ウイングシティ・新和地区)ぐるみで子どもを育てるための具体策を発案し、実践を図る。 ②小・中3校の生徒・児童会本部会を開催し、地域をよりよくするため、小・中学生が力を合わせてできること(清掃活動や公園の花壇の作成等)を決定し、地域と協力しながら子ども達の意見を具現化する。 ③生徒会本部を中心に「地域貢献プロジェクト」として、地域クリーン活動や地域をめぐるウォーキング等のボランティア活動を行う。 ④SSTC部を中心にファーストリティリング主催の「服の力プロジェクト」に参加し、難民の子ども達に着なくなった子供服を贈る活動を行う。また、生徒会主催のボランティア活動を実施し、日本赤十字社に寄付をする。 ⑤本校HP内に、新たに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、活動内容等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ⑥学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるようにする。	①学校評価保護者アンケート「保護者や地域の協力による教育活動の推進」の項目に対し、肯定的意見が90%以上になることができたか。 ②学校運営協議会でのアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒の姿を共有でき、地域ぐるみで子どもを育てるための具体的な実践を行ったか。」の項目に対し、肯定的な回答が90%以上になることができたか。				
4	『教職員の資質向上に関する取組』 (現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○アクティブラーニング型授業の実施について、定着が図られつつある。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。教職員全員が、授業で効果的にICT活用が図れるよう、研修が必要である。 ○多様な学習場面(家庭学習、オンライン学習)・学習形態(個別学習、探求型学習)・指導目標(基礎基本の定着、学び続ける力の育成)とICTの活用について効果的な関連性が教職員の中で定まっていない。	・教職員一人ひとりが働きやすいをもち、キャリアアップできる環境整備 ・生徒とともに教職員も自己実現が図れる職場づくり	・学校全体で組織的に、教職員の授業内容やICTの活用能力の資質・スキルの向上に取り組むために、①多様な生徒に対応した教科指導の実現に向けて、タブレット端末の効果的な活用方法を定期的に開催される校内研修で模索し、全教職員で実践する。 ②教職員がお互い授業を見合い、「よい授業」のチェック項目に照らし合わせ、タブレットの効果的な活用や学び合いの視点を重視した助言を行い、個々の授業スキルアップを図る。 ③教職員が、キャリアパスポートに基づいたスキルを明確化し、自己評価シートにスキルアップ・キャリアアップ項目を明記し、実行する。 ④全教職員が勤務時間外4.5時間以内になるよう、自分自身の仕事の見通しやマネジメントに責任を持つ。 ⑤三者面談の予約にMicrosoft Bookingを活用したり、情報共有でTeamsを積極的に活用したりすることを繰り返し体験することで、ICTを活用するべき場所やタイミングが感覚的にわかるようになる工夫を取り入れる。	①教職員アンケート「キャリアアップが図れ、児童に還元できた」「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったかの項目に対し、それぞれ肯定的な回答が、90%を超えることができたか。 ②よい授業のアンケートの全教員の平均値を昨年度より上昇できたか。				